

高校生の「先生」が見守る中、生き物を捕まえる小学生たち。丹波篠山市福住で



## ビオトープの生物調査

東雲高で「子ども塾」 泥にまみれ捕獲・観察

丹波地域の高校生が「先生」になり、各校ごとに特色ある体験活動を提供する「たんば子ども塾」がこのほど、篠山東雲高校で開かれた。校内のビオトープに生息する生き物の観察会を企画。丹波地域の小学4～6年生13人が、同

2022年8月18日

丹波新聞

高自然科学部1、2年生5人の生徒の指導のもと、泥まみれになりながら生き物を採集した。高校生は「雑草の周りをいじごしてから網を引き上げて」と、水生生物を採集した。1時間ほど、アカハライモリやドジョウ、コオイムシなどを確認する作業を繰り返して、次々と捕獲した。

約10種類を確認した。捕まえた生き物は、水槽などに入れて観察。高校生が生態を解説した。君（味間小6年）は「ぐちよぐちよな泥の中に入って、生き物がいっぱい捕れるのが面白かった。高校生の説明はめっちゃ分かりやすかった」と話していた。同部の 君（1年・篠山中出身）は「子どもに教えるのは初めて。緊張したけれど、教えることで勉強になったし、貴重な経験になった」と笑顔を見せた。篠山産業高校では7月22日に皿などを使った時計作りを、篠山鳳鳴高校では2日にデカンショ節の歌詞作りなどを行った。